

目 次

第1部 事業者のための化学物質のリスクコミュニケーションガイド (新版)	1
1. はじめに	1
2. 化学物質のリスクコミュニケーションの基本	7
3. 事業者が行うリスクコミュニケーションの要点	14
4. 事業者が行うリスクコミュニケーションの基本的手法	22
5. 事業者がリスクコミュニケーションを行うために必要な体制整備	33
第2部 Dr.Chess招聘シンポジウムと座談会	1
1. シンポジウム・座談会開催の趣旨	1
2. シンポジウムでの Dr.Chess による講演の概要	3
3. Dr.Chess とのリスクコミュニケーション手法に関する座談会の記録	13
4. Dr.Chess によるリスクコミュニケーションセミナーの概要	16
5. Dr.Chess とのNGO座談会の概要	22
第3部 外国文献翻訳	1
1. The Annals of the American Academy of Political and Social Science, Vol.545 (1996)	1
2. Risk Analysis Vol.19, No.3 (1999)	26
3. Understanding risk: Informing decisions in a democratic society, National Research Council (1996)	37
4. Communicating risks to the public: International perspective, Kluwer Academic publishers (1990)	42
5. 主要なリスクコミュニケーションツールの収集	64
第4部 国内事例調査	1
1. 家電リサイクルプラント立地における事例	1
2. 産業廃棄物の中間処理施設および化学製品の製造工場における事例	14
3. 乳幼児用玩具の塩ビ・フタル酸エステルをめぐる業界団体と 環境NGOの「対話」事例	21
4. 埼玉県西部地区産業廃棄物処理場密集問題について	29
5. 埼玉県としての地下水汚染対策に関するコミュニケーション事例	49
6. 日本企業の環境報告書による化学物質情報の開示事例	57
7. 日本企業の環境報告書による化学物質情報開示に関するNGO ヒアリング	64
第5部 マスメディアの現状と課題	1
1. 内分泌攪乱物質問題の経緯と報道の果たした役割	1
2. ダイオキシンと内分泌攪乱化学物質に関するマスメディア報道と その課題	39
3. マスメディア関係者との座談会の概要	44